

令 和 5 年 度
長野市放課後子ども総合プラン事業
自 己 評 価 集 計 結 果

長野市こども未来部こども政策課

令和５年度 長野市放課後子ども総合プラン事業 自己評価集計結果

長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン（平成30年３月策定。以下「ガイドライン」といいます。）に基づき、令和５年度（令和４年度）における放課後子ども総合プラン事業の実施内容等について、実施場所ごとに自己評価を行いました。

《長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン》

第２章 基本的事項及び管理運営

10 自己評価

事業者は、運営内容の向上のため、実施場所ごとに提供する支援の内容等について自己評価を行い、その公表に努めるものとします。

1 実施状況

対象：86施設 実施：86施設 （実施率100%）

（参考：令和４年度 対象87施設 実施87施設 （実施率100%））

2 評価方法

評価項目内の評価指標ごとに○または×で回答し、評価項目全体の「○」の数によって◎、○、△、×のいずれかの評価を算出する。

3 集計結果（評価項目ごとの評価指標等については、次頁以降）

評価項目	評価結果				
	区分	◎	○	△	×
1 人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関すること	R５年度	86施設	0施設	0施設	0施設
	R４年度	87施設	0施設	0施設	0施設
2 運営管理に関すること	R５年度	40施設	40施設	6施設	0施設
	R４年度	36施設	43施設	8施設	0施設
3 育成支援の内容に関すること	R５年度	70施設	16施設	0施設	0施設
	R４年度	71施設	16施設	0施設	0施設
4 配慮を要する児童への対応に関すること	R５年度	72施設	12施設	2施設	0施設
	R４年度	72施設	11施設	4施設	0施設
5 多様な体験活動、交流等の機会の提供に関すること	R５年度	47施設	23施設	13施設	3施設
	R４年度	33施設	33施設	16施設	5施設
6 安全管理に関すること	R５年度	72施設	10施設	4施設	0施設
	R４年度	66施設	17施設	4施設	0施設
7 保護者、学校及び地域との連携協力に関すること	R５年度	63施設	22施設	1施設	0施設
	R４年度	61施設	25施設	1施設	0施設

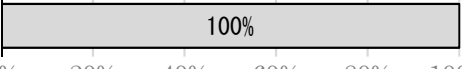
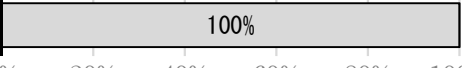
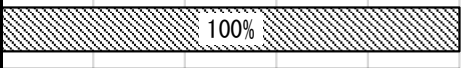
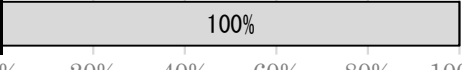
＜評価項目 1＞人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関すること

評価結果					◎ ○ △ × R5年度  R4年度  0% 20% 40% 60% 80% 100% ○、△、×は該当施設なし
区分※	◎	○	△	×	
R 5 年度	86施設	0施設	0施設	0施設	
R 4 年度	87施設	0施設	0施設	0施設	

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

＜評価指標＞

(○の占める割合)

① 児童及びその家族の人権に十分配慮し、一人一人の人格を尊重している。	R5年度  R4年度  0% 20% 40% 60% 80% 100%
② 児童及びその家族の国籍、信条又は社会的身分等によって、差別的な扱いをしていない。	R5年度  R4年度  0% 20% 40% 60% 80% 100%
③ 児童虐待等、児童の心身に有害な影響を与える行為をしていない。	R5年度  R4年度  0% 20% 40% 60% 80% 100%
④ 児童及びその家族の個人情報を適切に取扱っている。また、正当な理由がなく、業務上知り得た児童及びその家族の秘密を外部に漏らさないよう配慮している。	R5年度  R4年度  0% 20% 40% 60% 80% 100%

結果

①～④について、全施設で児童やその家庭の人権の尊重やプライバシーの保護の重要性が認識され、情報の管理が徹底されている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・子ども一人ひとりの気持ち、感情に寄り添い、尊重した接し方をしている。
- ・日頃の職員会議及びミーティングで児童の様子を共有し、一人ひとりを大切にするよう努めている。
- ・外国で育った児童には、早く他の児童と馴染めるように加配の職員がつくなど配慮している。
- ・個人情報などの守秘義務を遵守するよう心掛け、毎日の連絡会により徹底した。
- ・登録児童票などの個人情報が書かれた書類は、鍵のかかる書棚に保管している。

《評価項目2》運営管理に関すること

評価結果					■◎□○■△□×
区分※	◎	○	△	×	
R5年度	40施設	40施設	6施設	0施設	
R4年度	36施設	43施設	8施設	0施設	

※保育実費の負担を求めている施設（①～⑩）

評価指標の「○」の数が10個⇒「◎」、7～9個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

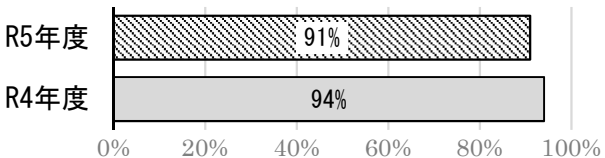
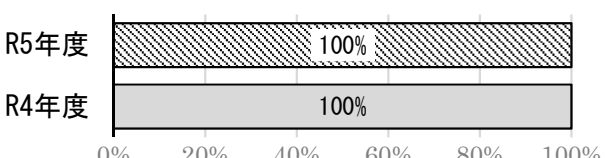
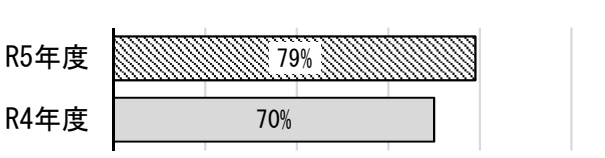
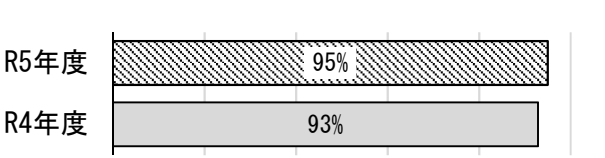
保育実費の負担を求めていない施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

《評価指標》

（○の占める割合）

① 実施日は、1年につき250日以上を原則とし、保護者の就労状況、学校の授業日、その他地域の実情を考慮して設定している。	
② 実施時間の延長については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。	
③ 運営規程を定め、運営規程に沿った事業運営を行っている。	
④ 職員は、自己研さんに励み、児童の健全な育成を図るために必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めている。また、職員間で必要な知識及び技能の共有を図っている。	
⑤ 運営内容向上のため、提供する支援の内容等について自己評価を行っている。	
⑥ 自己評価の結果は、掲示板への掲示や通信（施設だより等）への掲載などにより公表に努めている。	

⑦ 要望・苦情を受け付ける窓口を設置し、周知している。	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>94%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R5年度	91%	R4年度	94%
年度	割合						
R5年度	91%						
R4年度	94%						
⑧ 苦情を受けた場合は速やかに対応し、申立人に対して丁寧な説明や対応を心掛け、誠意ある解決を図っている。	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R5年度	100%	R4年度	100%
年度	割合						
R5年度	100%						
R4年度	100%						
⑨ おやつ提供については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R5年度	79%	R4年度	70%
年度	割合						
R5年度	79%						
R4年度	70%						
⑩ おやつ代等保育実費の負担を求める場合、保護者に対して料金設定の理由を明確にしている。 令和5年度対象施設は、38施設	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>93%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R5年度	95%	R4年度	93%
年度	割合						
R5年度	95%						
R4年度	93%						

結果

- ・①、③、④は、ほぼ全ての施設で適切に設定、実施されている。
- ・②の延長については、約9割の施設で実施している。
- ・⑤の自己評価は全ての施設で実施している。
- ・⑥の自己評価の実施及び結果を公表した施設の割合は、前年度から上昇しているが、6割弱にとどまっている。
- ・⑦のガイドラインに定める苦情の受付窓口の設置・周知の達成割合は9割以上の施設が実施しており、⑧の苦情を受けた場合の対応については、全施設で速やかにかつ丁寧な解決を図っている。
- ・⑨のおやつについては、提供していない施設もあり、アンケート実施は8割弱の施設に留まる。
- ・⑩のおやつ代等の保育実費について、保護者に対して料金設定の理由を明確にしている施設の割合は昨年度同様9割を超えており、ほとんどの施設で実施できている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・支援員への連絡や協議は児童の来館前に毎日の連絡会の中で行い、情報の共有を図った。補助員には、その都度、来た職員には口頭で伝え、その他の職員にはノートに連絡内容を記入し、閲覧するようにしてきた。
- ・児童理解や支援の仕方などの研修には必ず参加し、参加者が職員会で発表して職員全体で共有するようにしている。
- ・全員が一同に会することが難しいため、引継ノートを利用している。児童登館前に情報共有や伝達を行っている。

- ・ 毎日の打合せ時間を 30 分とり、子どもの様子、保護者、学校からの連絡等きめ細かに伝達・共有している。
- ・ 研修会等には積極的に参加して、知識技能の向上に努めている
- ・ 保護者への連絡は、周知徹底を図るため、コドモンを最大限活用している。
- ・ 自己評価シートはコドモンで発信する予定。
- ・ 自己評価の結果は保護者会において公表し周知している。
- ・ 自己評価については評価後玄関に掲示し公表したい。
- ・ 今年度、掲示板に自己評価を掲示した。運営委員会には6月に報告する。
- ・ 自己評価の結果は施設の保護者が確認できる場所3ヶ所に掲示している。
- ・ 要望、苦情窓口を設置するとともに、保護者との対話を心がけている。
- ・ 保護者や地域住民からの苦情や要望を丁寧に聞き取り対応したり、「コドモン」等で要望を聞く窓口を常設している。
- ・ 昨年6月に記述式のアンケートをとり、要望や気になる事柄などを書いていただいた。記述された事項は全て「プラザだより」に対応も含めて載せ、理解を図った。
- ・ コドモンが導入されて以降、アンケートにせよ保護者の意見を求めるにせよ保護者が使い勝手よく利用できるようになった。
- ・ 今年度、問題にするような苦情はなかったが、どんな問題も全員で共有して解決を図るようにし、場合によっては学校・社協や市に報告・連絡・相談して対応している。
- ・ 苦情や相談など受けた場合は、職員全体で情報を共有し、話し合いを行い、説明や対応が出来るようにしている。
- ・ おやつについては、保護者にアンケートを取って料金設定をし、意向に沿えるようにしている。

《評価項目3》育成支援の内容に関すること

評価結果						
区分※	◎	○	△	×	◎ ○ △ ×	
R5年度	70施設	16施設	0施設	0施設	R5年度	81% 19%
R4年度	71施設	16施設	0施設	0施設	R4年度	82% 18%

0% 20% 40% 60% 80% 100%
△、×は該当施設なし

※おやつを提供している施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×

おやつを提供していない施設（①～⑧）

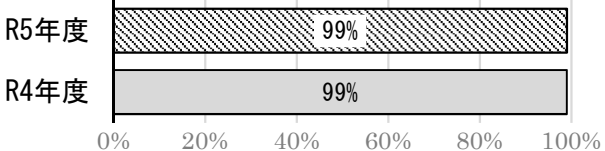
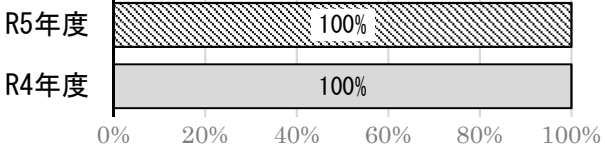
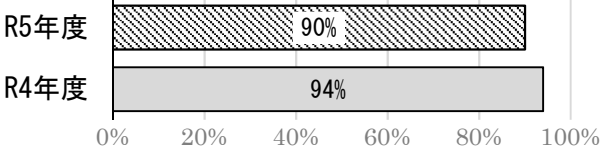
評価指標の「○」の数が8個⇒「◎」、6・7個⇒「○」、4・5個⇒「△」、3個以下⇒「×

《評価指標》

（○の占める割合）

① 児童の出欠席についてあらかじめ保護者からの連絡を確認しておくとともに、児童の心身の状況を把握するようにしている。	R5年度 90% R4年度 88%
② 実施場所での生活を通して、児童が日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得できるよう支援している。	R5年度 99% R4年度 99%
③ 児童が発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるよう支援している。	R5年度 97% R4年度 97%
④ 児童が自分の気持ちや意見を表現することができるよう支援している。	R5年度 99% R4年度 99%
⑤ 児童が悩みや相談事を話しやすい雰囲気づくりに心掛けるようにしている。	R5年度 100% R4年度 100%
⑥ 児童が安全に安心して過ごすことができるように環境を整備するとともに、緊急時に適切な対応ができるようにしている。	R5年度 100% R4年度 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

⑦ 実施場所での児童の様子を日常的に保護者に伝え、児童に関する情報を保護者と共有するようにしている。	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>99%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実施率	R5年度	99%	R4年度	99%
年度	実施率						
R5年度	99%						
R4年度	99%						
⑧ 児童の健康状況を観察し、病気やけがの場合には、保護者と連絡を取り、迎えに来てもらったり、状況に応じて医療機関につなげたりするなど、児童が安心して回復に向かうことができるよう配慮している。	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実施率	R5年度	100%	R4年度	100%
年度	実施率						
R5年度	100%						
R4年度	100%						
⑨ おやつを提供する場合、提供する時間や内容、量等は、児童の来所時間や帰宅時間、遊びや生活の流れ、児童の状態を考慮している。 令和5年度対象施設は、38施設	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>94%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実施率	R5年度	90%	R4年度	94%
年度	実施率						
R5年度	90%						
R4年度	94%						
結果 ・①の出欠の事前把握については、コドモンの導入以降改善し、9割の施設で把握できている。 ・②～⑤の児童への支援や相談環境づくりについては、前年度と同等で、ほとんどの施設において適切に実施されている。 ・⑥の児童の安全・安心な環境整備や緊急対応、⑦、⑧の保護者との情報共有や病気やけがへの対応については、ほとんどの施設で適切に実施されている。 ・⑨のおやつを提供する場合の児童の来所時間等の考慮については、昨年度よりもやや減少したものの、9割以上の施設で適切に実施されている。							
施設コメント（主なもの、参考となるもの） ・コドモンにより、児童の出入りを保護者が遠隔で確認でき、安心感や利便性が高められ、プラザからのお便りや行事予定等の配信もでき、保護者から大いに歓迎されている。 ・来所した時、「お帰りなさい」の声掛けとともに、普段の様子と違うところはないか注意を払っている。 ・遊びだけでなく、手洗いや靴をそろえる、自分のロッカーの整頓、先生の話をしっかり聞くなどの支援も心がけている。 ・児童の体力、関心が違うため、子ども達の意向に沿った過ごし方（活動）を基本に考えている。 ・遊んでいる時、困った表情をしている時など日頃から声をかけて話を聞くようにし、児童が話しやすい雰囲気を作るように心がけている。 ・児童一人ひとりの心身の状況を観察し、職員同士で意見交換している。 ・「子どもとともに」を合言葉に、子ども達に寄り添った支援に努めている。集団になじめない児童がいたときは、声をかけて遊びに誘い、みんなで遊ぶ楽しさを実感できるようにしている。トラブルがあったときは、双方の話を聞き、振り返って考える場になるようにしている。							

- ・特に新学期は、職員ミーティングで児童の様子、安全確認・ルール等を職員全員で再確認し、それを基に統一して児童へ指導・支援をしている。
- ・児童の得意なこと、頑張ったことを褒め、共感的に接することで児童が困ったことや悩みを相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。
- ・職員が出来るだけ大勢の職員に接する事でコミュニケーションを密にして児童が話しやすい環境づくりに努めている。
- ・低学年の子など、自分の気持ちをうまく言えない時は仲立ちをしている。一人ひとりの性格等考慮し、一人になっている子や、いじめにつながりそうなトラブルがないか、遊び相手をしながらも全体を見るようにしている。
- ・アレルギー児童の連絡先は直ちに対応できるよう目のつく場所に掲示している。
- ・保護者が部屋に入り直接児童を連れ帰るようにして、普段のセンターの様子や環境を見てもらっている。その時に職員との情報交換が出来るようにしている。

《評価項目 4》配慮を要する児童への対応に関すること

評価結果						
区分※	◎	○	△	×	■◎ □○ ▨△ □×	
R5年度	72施設	12施設	2施設	0施設	R5年度	84% 14% 2%
R4年度	72施設	11施設	4施設	0施設	R4年度	83% 13% 4%

※評価指標の「○」の数が6個⇒「◎」、5個⇒「○」、3・4個⇒「△」、2個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

① 児童同士が生活を通して共に成長できるよう、障がいのある児童についても受入れに努めている。	R5年度 R4年度 100% 100%
② 障がいのある児童の受入れの判断は、児童や保護者と面談の機会を持つなどして、児童の健康状態、発達の状況、家族の状況、保護者の意向等を個別に把握し、適切に行っている。	R5年度 R4年度 98% 95%
③ 障がいのある児童の育成支援については、個々の状況に応じて、関係機関及び専門家と連携を図っている。	R5年度 R4年度 92% 90%
④ 障がいのある児童の育成支援が適切に図られるように、児童の状況に応じた職員の配置や加配に努めている。	R5年度 R4年度 93% 94%
⑤ 児童虐待が疑われる場合には、市又は児童相談所に速やかに通告するようにしている。また、学校及び関係機関と連携して適切に対応している。	R5年度 R4年度 100% 97%
⑥ 児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮し、いじめ等の問題が生じたときには速やかに学校に連絡し、保護者、学校、関係機関と連携して適切に対応している。	R5年度 R4年度 99% 99%
結果 ・①の障がいのある児童の利用希望があった場合は、全ての施設で対応に努めている。 ・②の受入判断、③の障がいのある児童の育成支援、④の必要な職員配置、加配については、9	

割強の施設で対応できている。

- ・⑤の児童虐待、⑥の児童間のいじめ等への対応については、昨年度同様、ほぼ全ての施設において適切な対応を行っている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・ ケース会議を実施し、職員間で支援が一貫するようにしている。
- ・ 外国から来て間もない児童も、通訳の派遣により言葉の壁を越えて、生活にも慣れていった。
- ・ 障害を持つ児童の受け入れに際しては、学校・関係機関・保護者と打合せをし、受け入れ後の支援の仕方についても継続して情報交換を行っている。
- ・ 不機嫌な表情でプラザに来たときはすぐに担任と連絡をとり、その原因などについて情報共有している。
- ・ 多動な児童（ＡＤＨＤ）、落ち着きのない児童、学習障害を持つ児童に対しても、見守り、語りかけ、認め、褒め、作業をともにするなど寄り添い、粘り強く支援する努力をしている。
- ・ 障害のある子に関しては、今後の対応について学校・関係機関や専門家と連携を図り、適切な判断をしている。
- ・ 発達障がいや、障がいが疑われる児童に対して、プラザでの実態を学校に伝え、対処方法について共有してきた。
- ・ 学校の支援会議に参加し、学校、支援機関、保護者と定期的に連携している。
- ・ 児童の育成支援については、その子の状況に応じて、一対一の対応が必要な子には、加配をつけるなどの措置をとっている。
- ・ 配慮を要する児童へは、職員の個別配置、加配を実施するとともに、学校・関係機関・保護者と連携して支援を行っている。
- ・ 発達障害と思われる児童の利用がある。対象児童に対してはいじめ等が生じないように職員は常に注意を払っている。また、学校との連携も日常的に行っている。
- ・ 他の児童が障がいについて理解できずに対応に苦慮することはあるが、学校と同じ対応を原則とし、児童が差別を受けないように配慮している。

《評価項目 5》多様な体験活動、交流等の機会の提供に関すること

評価結果						
区分※	◎	○	△	×	◎ ○ △ ×	
R5年度	47施設	23施設	13施設	3施設	R5年度	55% 27% 15% 3%
R4年度	33施設	33施設	16施設	5施設	R4年度	38% 38% 18% 6%

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

① 児童に多様な体験活動、交流等の機会を定期的かつ継続的に提供している。	R5年度: 90% R4年度: 82%
② 小学校区における事業の円滑な実施を図るため、運営委員会、学校関係者、地域組織（母親クラブ等）、地域住民、保護者等との総合的な調整に努めている。	R5年度: 87% R4年度: 78%
③ 地域社会全体で児童を見守り育む機運を高めるため、地域ボランティアの掘り起しと、活用に努めている。	R5年度: 63% R4年度: 55%
④ 活動の内容は特定のものに偏ることのないよう配慮し、児童の要望を反映するように努めている。	R5年度: 91% R4年度: 89%

結果

- ・①の体験活動等については、新型コロナ禍が明けて以降、回復傾向にあり、前年度より2ポイント上昇し、9割の施設で提供できた。
- ・②、③の運営委員会等の関係機関との調整や地域ボランティアの掘り起こし・活用については、依然課題であるものの、前年度より、それぞれ8～9ポイント改善し、施設との連携・活用が進んできている。
- ・④については、前年度より割合がやや増加し、9割強の施設で要望把握に努めている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・アドバイザーに方を招き、様々な体験が楽しくできるように頻繁に行っている。
- ・アドバイザー活動を出来る限り利用して、多様な体験を提供するよう努力している。
- ・多様なアドバイザーをお願いして、学年、男女がバランスよく参加できるように工夫し、当初は嫌がっていた児童も興味を持ち、積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。
- ・毎年、母親クラブの行事を行ったり、地域のお祭りに参加するなど交流を図っている。

- ・通学路の安全対策・不審者対応・河川の氾濫など、地域役員、学校と写真をメール等で送り、連携をとっている。
- ・定期的にプラザで児童と「子ども会議」を開催し、例えば夏休みの活動などの要望や決まりごとの確認などを行っている。
- ・子どもプラザの運営を多くの方に知ってもらうことは重要だと思う。地域の役員さん（区長など）、PTA、小学校とプラザの職員で会議を年1回以上開催している。
- ・地区公民館の協力により、長期休業中に地域行事に関わる、ものづくり体験などの子ども講座を開催している。
- ・コロナ後の活動として、地域の区民祭に参加し、交流を再開できた。
- ・冬期間の室内遊びのためのDVD、カードゲーム、パズル等を購入する際には、児童から要望を聞いて購入した。

《評価項目 6》安全管理に関すること

評価結果					◎ ○ △ × R5年度 84% 12% 4% R4年度 76% 20% 4% 0% 20% 40% 60% 80% 100% ×は該当施設なし
区分※	◎	○	△	×	
R5年度	72施設	10施設	4施設	0施設	
R4年度	66施設	17施設	4施設	0施設	

※おやつを提供している施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×

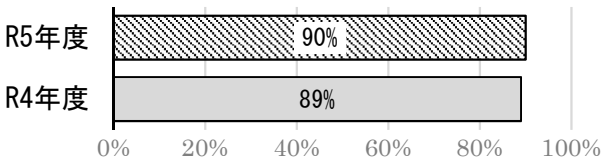
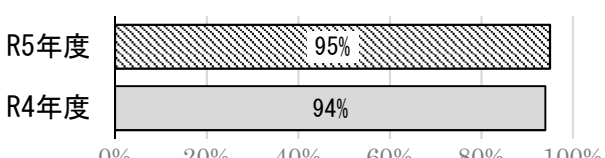
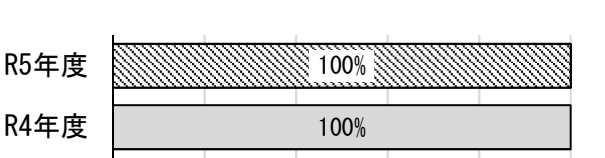
おやつを提供していない施設（①～⑧）

評価指標の「○」の数が8個⇒「◎」、6・7個⇒「○」、4・5個⇒「△」、3個以下⇒「×

《評価指標》

（○の占める割合）

① 児童の手洗いやうがいを励行するなど、日常の衛生管理に努めている。	R5年度 100% R4年度 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%
② 感染症の発生状況について情報を収集し、感染症の発生や疑いがある場合には、二次感染を防止するための措置を講じるようにしている。	R5年度 100% R4年度 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%
③ 実施場所及びその周辺の設備等の安全性について日常的に点検している。	R5年度 98% R4年度 99% 0% 20% 40% 60% 80% 100%
④ 事故及びけがの防止に向けた対策や発生時の対応に備えた訓練又は研修を実施している。	R5年度 97% R4年度 90% 0% 20% 40% 60% 80% 100%
⑤ 事故及びけがが発生した場合には、速やかに適切な処置を行い、速やかに保護者に連絡するようにしている。	R5年度 100% R4年度 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%
⑥ 災害等が発生した場合に迅速かつ適切に対応できるように定期的に訓練を実施している。	R5年度 93% R4年度 92% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

⑦ 市及び学校等関係者と連携を図り、地域における児童の安全確保及び安全点検に関する情報の共有に努めている。	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>89%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R5年度	90%	R4年度	89%
年度	割合						
R5年度	90%						
R4年度	89%						
⑧ 災害等が発生した際に保護者及び市、学校等に速やかに連絡できるよう連絡体制を整備している。	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>94%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R5年度	95%	R4年度	94%
年度	割合						
R5年度	95%						
R4年度	94%						
⑨ おやつを提供する場合には、食物アレルギー及び窒息事故の防止に留意するとともに、食中毒防止のための衛生管理を徹底している。 令和4年度対象施設は38施設	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	R5年度	100%	R4年度	100%
年度	割合						
R5年度	100%						
R4年度	100%						

結果

- ・①～③の日常的な衛生管理や感染症対策、安全管理等については、ほぼ全ての施設で徹底されている。
- ・④、⑥の訓練・研修の実施割合は年々上昇しており、約9割以上の施設で必要な訓練を実施している。
- ・⑤の事故やけがへの対応は全ての施設で徹底されている。
- ・⑦、⑧の情報共有、連絡体制整備については、昨年度からやや改善し、9割以上の施設で実施できている。
- ・⑨おやつを提供の際の衛生管理等については全ての施設で徹底されている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・コロナ終息後も、手洗い、うがい、職員マスク着用、おもちゃ、本の消毒等の基本的な日常の衛生管理は毎日行っている。
- ・毎日の玩具・遊具等の消毒、毎月の安全点検を実施している。
- ・コロナが第5類移行後も、感染予防の手洗い励行、換気等を継続実施し、感染防止に努めている。
- ・感染症の有無、発症人数は小学校からも情報をいただき、センター内でも常に換気、消毒に努めている。
- ・毎月10日に施設の安全点検を実施した。
- ・事故が起きやすい場所・状況を職員統一で周知し、毎日の活動場所の配置付けをしている。
- ・いつもと違う環境（雪や凍結など）になった場合、特に危ない場所などないか注意している。
- ・火災などの災害避難訓練、交通安全教室を必ず実施している。
- ・児童の事故やけがに対しては職員が瞬時に対処し、保護者への連絡、関係機関への通報、情報共有するように努力している。
- ・事故が起きてしまった際は、直ちに安全な場所で、傷を確認・保護者へ連絡のうえ、経過確認。再発防止の対策等を保護者に伝え、毎日の打ち合わせで職員に再確認している。

- ・ 消防計画に基づく防災訓練を2回（地震・火災想定）実施した。また、洪水時の避難確保計画に基づく机上訓練を1回行った。
- ・ 学校の防災会議、運営委員会等で災害発生に対する行動を共有している。
- ・ 消防署、警察の方から直接、談話を聞き指導してもらっている。
- ・ 緊急連絡等は「コドモン」で配信した。
- ・ 緊急時連絡体制は、コドモン導入により、コドモンと電話の2種類としている。
- ・ おやつ提供には、食物アレルギーの子の把握と防止、食中毒防止について職員全員で注意を払うように努めている。
- ・ 食中毒防止のため、おやつや全日開館時に持参したお弁当の温度管理に注意をしている。
- ・ アレルギー児童のおやつは個々に持参いただき、他児と席を別にしている。

《評価項目 7》保護者、学校及び地域との連携協力に関すること

評価結果					◎ ○ △ ×
区分※	◎	○	△	×	
R5年度	63施設	22施設	1施設	0施設	
R4年度	61施設	25施設	1施設	0施設	

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

① 保護者との信頼関係を築くよう努めるとともに、子育てのこと等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	R5年度 R4年度
② 保護者から相談がある場合には、保護者の気持ちを受け止め、対応している。	R5年度 R4年度
③ 児童の毎日の生活が学校、実施場所、家庭の間で連続性をもって円滑になるよう、学校と情報交換を行い、連携を図っている。	R5年度 R4年度
④ 児童が地域の中で健やかに育つことができるよう、運営委員会及び民生委員・児童委員、地域組織（母親クラブ等）、児童に関わる関係機関等との情報交換、情報共有及び相互交流を行い、連携を図っている。	R5年度 R4年度

結果

- ・①、②の保護者との信頼関係構築、相談対応については、全ての施設で適切な対応をしている。
- ・③について、ほとんどの施設で、学校との情報交換・連携を進めている。
- ・④について、母親クラブ等の活動、地区の運営委員会、地域の児童福祉関係者等との連携は新型コロナ禍以降、低調であったが、前年より6ポイント改善した。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・日常の子どもの様子を写真付きで「児童センターだより」に掲載して、コドモンを使って月2回以上保護者に発信してきた。その中で「ご不明な点は館長までお知らせください」とたびたび書いている。
- ・保護者に対しては、恒常的に意見や要望を聞く機会を設け、要望等のある場合は丁寧な聞き取りに心がけ相談する機会を取っている。

- ・保護者とは、お迎えに来た時等を利用してコミュニケーションが取れるように配慮し、プラザでの様子を伝えたり、体調を確認したりしている。
- ・保護者から児童の相談が寄せられた時は、まず保護者の育児への悩み・努力に共感し。センターでも一緒に対応していくことを伝え、焦らずに安心するよう話すとともに、必要に応じて市の相談機関などをお知らせしている。
- ・1、2年生の下校時にはなるべく館長が出向き、直接担任の先生方と会話して個々のお子さんの状況をお聞きするように努力している。
- ・登録児童の動向に変化、心配がある場合は学校担任に相談し、生活環境等にきっかけがあったのか確認してセンターでの支援を学校と統一するよう心がけている。
- ・1年生の担任が毎日センターまで子どもたちを連れてきてくださる。その際、子どもたちの様子を情報交換し、支援に生かしている。
- ・児童が学校で発生したトラブル、健康状態等を必要に応じて引率教員より報告をいただき、センターでの生活に活かしている。また、必要に応じて保護者にお迎え時に伝えている。
- ・特に学級担任と情報交換を実施。また、教頭先生や養護教諭との情報交換等、学校との連携を大事に考え実践している。
- ・学校との情報交換は、両者懇談会を実施したほか、都度連携を密にするよう心がけている。
- ・毎年、学校とプラザとの連絡会を実施し、一人ひとりの児童に対する情報を交換・共有している。
- ・施設長、支援員と学校長、教頭先生等とのビデオ視聴による意見交換を行い、連携強化に努めている。
- ・地域を基盤とした運営委員会や地区更生保護女性会との交流を行ったり、地区の老人連合会からプレゼントをいただいたりしている。
- ・コロナ禍の時は、対面での委員会が開けなかったが、本年度は久しぶりに対面での会ができた。

